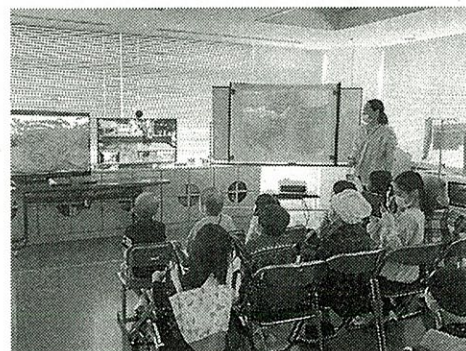


「持続可能な社会」への転換に 大学や企業が協働で取り組む

新型コロナウイルスの感染拡大は日本社会のもろさをあらわにした。医療の逼迫に加え、雇用環境の悪化による所得や教育の格差の広がりなど、課題は多岐にわたる。そして、これらの問題は2030年の達成に向け、国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」と連動することが指摘されている。互いに影響を及ぼし合う経済



関西学院大などによる実証実験で沖縄美ら海水族館と5Gで結び、ジンベエザメの中継映像を見つめる子どもたち(東京都立光明学園そよ風分教室)

成長と社会的包摂(インクルージョン)、環境保護の3面のバランスがとれた持続可能な社会への転換が求められているのだ。今回のアクセスランキング(左ページ)では、そうした社会の実現を目指すニュースに着目した。

SDGsでは、世界全体で1人当たりの食料廃棄の半減を目指している。環境省とフードシェアリングサービス「TABETE(タベテ)」の運営会社は、食品ロスの削減につながる活動に取り組むたい学生を公募する2020年度「NoFoodloss」ユース・アクション・プロジェクトを共催。29件の応募のうち、学生食堂の食品ロスをゼロにすることを目指す聖心女子大(東京都渋谷区)の学生団体「Earth in Mind」のプロジェクト

エクトを含む5件が対象に選ばれた。1月には、それぞれの取り組みの最終報告が行われ、参加者による投票の結果、同学生団体が唯一オーディエンス賞に輝いた。学食の利用者の具体的な行動変容にまで取り組んだことなどが評価された(30位)。

関西学院大(兵庫県西宮市)教育学部の丹羽登教授は19年から、「5GやVR・水中ドローン等の先端技術を活用した遠隔教育プロジェクト」の実証実験を富士通などと共同で進めている(表外)。不登校や病気療養中などの児童、生徒が対象で、SDGsの17の目標の一つ「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供」の実現に向けた取り組みだ。

神奈川県立こども医療センター(横浜市)内にある県立横浜南養護学校で行った実証実験では、横浜・八景島シーパラダイスとネットワークで接続し、高精細な映像をリアルタイムに伝送するシステムを構築。病院内の教室にいる子どもたちは、VR(仮想現実)ゴーグルを着けて首を上下左右に動

かすことで水族館の水槽内にある水中ドローンを遠隔操作し、水中に潜っているかのような感覚で泳ぐ魚を観察した。国立成育医療研究センター(東京都世田谷区)内の都立光明学園そよ風分教室と、沖縄美ら海水族館を5G回線で結んだ遠隔授業では、4Kの高精細映像でジンベエザメの餌やりなどをライブ中継した。このプロジェクトは、SDGs達成に資する優れた取り組みを行っている企業・団体などを日本政府が表彰する「第4回ジャパンSDGsアワード」特別賞など複数の賞を受けた。丹羽教授は「子どもや関係者の『新しいことにチャレンジしよう』という思いが、成功につながったのだと思います。体験的な活動を充実させるため、仮想現実を効果的に活用していきたいですね」と話す。

コロナ禍後の社会を見据え、考え方や価値観の転換を牽引する人材の育成も求められている。

立命館大は24年4月、衣笠キャンパス(京都市)にある映像学部と、びわこくさつキャンパス(滋賀県草津市)の情報理工学部を大

大学プレスセンター ニュース・アクセスランキング (2020年12月21日~21年1月20日)

順位	配信日	大学名	所在地	タイトル
1	12/25	明治大学	東京	新卒職員採用サイトがオープン。大学職員の仕事内容や魅力などを「挑戦」の視点から紹介。
2	12/24	近畿大学	大阪	「近大DX(デジタルトランスフォーメーション)」が始動。東大阪キャンパスに動画コンテンツ収録スタジオを設置するなど、デジタルを駆使し、授業のオンデマンド化を推進。
3	1/12	近畿大学	大阪	総合社会学部の岡本健准教授がVR空間を用いた授業コンテンツの実証実験を産学連携で実施。
4	12/31	立命館大学	京都	24年に映像、情報理工学部および研究科が大阪いばらきキャンパスに移転。「高度な武器を複数もつ人材」の育成を目指し、新広告「ダ・ヴィンチは、うみだせる。」を展開中。
5	1/15	神奈川大学	神奈川	グローバル系3学部(経営、外国語、国際日本)を設置する「みなとみらいキャンパス」が今春開設。あらゆる人が集い、知が交流する拠点「ソーシャルコモンズ」を目指す。
6	1/12	近畿大学	大阪	医療現場における新型コロナウイルスの経路別感染リスクを、医学部の東賢一准教授らが算出。
7	12/22	徳島文理大学	徳島	25年4月、香川キャンパスをJR高松駅北西部隣接地に全面移転。現在の郊外型から都市型の「高松駅キャンパス」となり、教育・研究やインターンシップなどでの効果に期待。
8	1/5	大阪大学	大阪	「オンライン個別進学相談」を開催。1月は新テスト直前企画として現役学生が相談に応じた。
9	1/13	法政大学	東京	関西大と「単位互換学生交流に関する協定」を締結。両校の多様な学びを推進。
10	1/14	龍谷大学	京都	コロナ禍での就職活動に向け、全国で初めて「オンライン選考用個別BOX」を学内に設置。静謐で良好なネット環境のもと、安心して企業のオンライン選考に臨むことができる。
11	12/21	立教大学	東京	次期総長に西原康太文学部長兼大学院文学研究科委員長を連任。任期は4月1日から4年間。
12	1/6	東京薬科大学	東京	生命科学部に学科横断的に履修できる「アントレプレナー養成」「グローバルキャリア」「データサイエンス」の3プログラムを新設。ソサエティ5.0の社会でクリエイティブに活躍する人材を育成。
13	12/24	聖心女子大学	東京	20年「大学ランキング」(調査:大学通信)の各項目で上位にランクイン。「教育力が高い大学」全国私立女子大2位、「生徒に人気がある大学」都内女子大2位、「著名400社就職率」全国女子大4位など。
14	12/25	東京医科大学	東京	新型コロナウイルスに関する市民公開講座「いつでもマスクなぜ大事?」をオンラインで開催。
15	1/6	拓殖大学	東京	次期学長に鈴木昭一副学長・理事、商学部教授を選任。任期は4月1日から2年間。
16	1/13	玉川大学	東京	ソサエティ5.0を見据えた自然科学系基礎実験拠点「Consilience(知の融合) Hall 2020」が4月に運用開始。光ダクトなどを利用した省エネ設計で、SDGsを意識した校舎環境を整備。
17	1/13	近畿大学	大阪	学生らが産学連携で、歩行を助ける新特許技術の高機能靴下「AMENOKAK(アメノカク)」を開発。
18	12/21	成蹊大学	東京	オンライン授業を紹介する特設サイトを公開中。各学部の取り組み事例やアンケート調査結果などを紹介。
19	1/4	フェリス学院大学	神奈川	学生が開発に携わった給食メニュー「百人一首献立」が横浜市の市立中学校の配達弁当「ハマ弁」に登場。
20	1/14	中央大学	東京	商学部の学生が1月30日にオンラインツアー「サクタビ」を実施。長野県佐久穂町の魅力を伝える。
21	1/19	追手門学院大学	大阪	22年4月に国際教養学部を改組し、国際学部と文学部(いずれも仮称)の開設を構想中。
22	12/24	東京医科大学	東京	医学部の入試での新型コロナウイルス感染症対策を公表。同大病院感染制御部の感染症専門医がアドバイス。
23	12/24	清泉女子大学	東京	本館聖堂で行われたクリスマスミサの様子を公式YouTubeチャンネルと公式サイト特設ページで公開。
24	1/13	武蔵大学	東京	学生が大学の魅力を発信するウェブマガジン「きじき」を配信。仙台や新潟、大阪など、始発で1限の授業に間に合う限りの場所を調査した記事など、ユニークなコンテンツが人気。
25	1/9	武蔵大学	東京	*ゼミの武蔵。で知られる同大のゼミ活動を教員らが紹介した「ゼミブログ」が投稿数700を超える。
26	1/12	藍野大学	大阪	新型コロナで実習ができず困っている医療系学生をVR(バーチャルリアリティ)で支援する大阪大学大学院医学系研究科の菅本一臣教授のプロジェクトに、藍野大医療保健学部の学生らも参加。
27	12/22	北海道科学大学	北海道	道内の大学で初めて、抗菌・抗ウイルス対策として学内施設に光触媒のコーティングを実施。
28	12/24	大阪電気通信大学	大阪	同大公式Vチューバー「初日乃うい」による入試解説動画を公開。プロの指導のもと学生らが制作。
29	12/25	成蹊大学	東京	日本文学部の平野多恵教授ゼミがオンライン「ゼミ祭」を開催。江戸時代の和歌古い「暗明歌古」を体験。
30	1/20	聖心女子大学	東京	学生団体「Earth in Mind」が「環境省×TABETE「No-Foodloss」 Youth Action Project」でオーディエンス賞を受賞。学生食堂のフードロスゼロを目指した取り組みが評価。

※タイトルは一部編集しています。詳細は「大学プレスセンター」のホームページ(<https://www.u-presscenter.jp/>)をご覧ください。

阪いばらきキャンパス(OIC、大阪府茨木市)に移転(4位)。OICは経営、政策科学、総合心理、グローバル教養の4学部と合わせ計6学部を擁する知の拠点となる。キャッチコピー「ダ・ヴィンチは、うみだせる。」には、社会の常識を変えるような人材になってほしいとの思いが込められている。多分野の「知」を共鳴させ、行政や企業と連携して社会課題を解決していく基盤を構築する。

玉川大(東京都町田市)は異分野融合によるイノベーションを創出する人材育成の場として、4月から新校舎「Consilience Hall 2020」の運用を開始する(16位)。独自の「EST-EAM教育」の中核施設の一つで、主に工、農、芸術学部が活用。課題解決型のプロジェクト学修を実践していくための基礎実験拠点としての役割を担う。省エネなどSDGsを考慮したつくりになっている。

コロナ禍後の持続可能な社会への転換には、大学と企業、行政、NPO(市民)の協働が不可欠となるだろう。大学通信・上道敬子